

「地域づくり活動支援指針」「県行政参画・協働推進計画」の見直しについて

「地域づくり活動支援指針」「県行政参画・協働推進計画」(計画期間：平成 18～22 年度)に基づく5カ年の取り組みの報告作成を踏まえ、現行の支援指針・推進計画の見直しを行う。

1. 現行支援指針・推進計画(平成18年3月策定)の構成

【展開にあたっての3つの視点】		
県民主役の展開	過程(プロセス)の共有	相互信頼のネットワーク

<p style="text-align: center;"><u>地域づくり活動の支援の方向</u> (<u>地域づくり活動支援指針</u>)</p> <p>新たな活動を生み、育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な情報を使いやすく提供 ・地域に潜在する多様な人材の参画と協働 ・実践活動につながる学習機会の充実 <p>活動を高め、支える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的、継続的な活動につながる支援 ・既存施設を活用した身近な活動の場づくり ・自立的な財政基盤の充実支援 <p>活動をつなぎ、広げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人や活動のネットワーク化 ・地域の取り組みを柔軟に支援 ・中間支援機能を持つ組織・団体への支援 ・各地域での総合的な支援拠点機能の充実 	<p style="text-align: center;"><u>参画と協働による県行政推進の方向</u> (<u>県行政参画・協働推進計画</u>)</p> <p>県民と情報を共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民が主体的に選択できる情報の迅速な提供 ・県行政の評価・検証への県民参画の促進 <p>県民と知恵を出し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民の提案を具体化するしくみの検討 ・審議会などへの県民の参画機会の拡充 <p>県民と力を合わせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民の主体性を活かした多様な協働の展開 ・公民協働の取り組みの拡充 ・推進員など多様な主体の連携を支援
--	--

2. 見直しの方向性

(1) 「5カ年の報告」作成による課題の抽出

県民意識・実態調査等の実施により、参画と協働関連施策の効果を検証することで課題を抽出し、現行指針・計画が定める参画と協働の展開方向について補強、修正する。

【想定される課題】

- | | |
|----------|----------------|
| ・参加者の固定化 | ・資金等、活動基盤の不安定性 |
| ・情報の提供方法 | ・地域事情の多様化 |
| ・市町と県の連携 | ・活動団体の連携 |

県民意識調査項目 (無作為抽出)	地域活動への参加意識 <ul style="list-style-type: none"> ・地域におけるつながりの状況 ・参加している地域活動の内容、参加形態 ・地域活動に参加したきっかけ ・地域活動に参加しない理由
---------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動をしやすいするための行政の支援策 <p>県民と行政の役割分担</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に対する県民と行政の役割分担についての考え ・地域課題解決に参画する場合の手段 ・社会的孤立に対する県民と行政の関与についての考え <p>県政への参加意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県政への県民意識の反映についての考え ・県政が身近になるために必要なこと
活動している県民への調査項目	<p>地域活動の開始時期</p> <p>参画協働条例制定後の地域活動のやりやすさの変化</p> <p>利用したことのある行政の支援策</p> <p>支援情報を得たルート</p> <p>地域活動をしやすいするための行政の支援策</p> <p>支援策の改善策</p> <p>他の団体との連携状況、連携のために必要な行政の支援策</p> <p>県職員に望むこと</p>

(2) 状況の変化への対応

- ・人口減少社会の到来
- ・地域活力の格差
- ・児童虐待や一人暮らしの高齢者の孤立など、社会からの孤立